

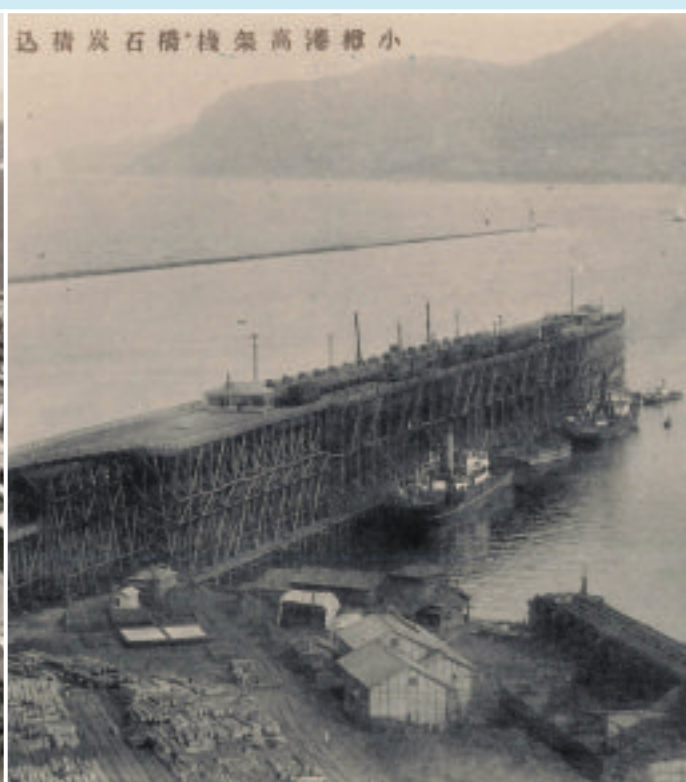
港のたより



(一社) 寒地港湾技術研究センター
COLD REGION PORT AND HARBOR ENGINEERING RESEARCH CENTER



(写真提供: 室蘭市)



(写真提供: 小樽市総合博物館)

Contents

港湾ニュース

「炭鉄港」日本遺産に認定	2
日本遺産認定『炭鉄港』の取り組み	3
海上コンテナによる小口混載輸出の実証実験	4
「北方海域技術研究会 令和元年度 技術研究発表会」を開催しました	5
室蘭港長期構想について	6
苫小牧港とパンクーパー港が LNG バンカリングの促進に向けた覚書を締結	7
i-Construction 大賞の受賞に寄せて	8
遠別漁港船揚場上架設の完成	10

センター通信

平成31年度第4回 CPC 交流セミナー開催報告	11
広報委員会の開催について	11
第2回技術委員会の開催について	12
第2回常任委員会の開催について	12
助成事業報告	13

お知らせ

一般社団法人 寒地港湾技術研究センターの名称変更について	17
令和2年度「積雪寒冷地港湾・空港等の振興のための助成」に関する募集	17

令和2年度「定時総会」開催のご案内(予告)	18
令和2年度 第1回 CPC 交流セミナー開催のご案内(予告)	18
「令和3年度 自主調査研究テーマの募集」のご案内(予告)	18
図書貸し出しについて	18
メールアドレス登録のお願い	19

編集後記	20
------	----

vol.132
2020.3.30

News 港湾ニュース

■「炭鉄港」 日本遺産に認定

室蘭市 港湾部

1. 室蘭市の概要

室蘭市は北海道の南西部に位置し、市名はアイヌ語の「モ・ルエラニ(小さな坂を下ったところ)」に由来しています。北海道の南西部に位置し、明治5年の開港以来、100年以上にわたって港を中心に製鉄、製鋼、石油精製、造船など「ものづくりのまち」として発展しました。

港の歴史は古く、明治新政府が北海道の首都を札幌に定めたことにともない、本州からの函館－札幌を結ぶ貨物輸送路の一路として、噴火湾を渡る海上航路が開設されたことが室蘭港の始まりであり、令和4年には開港150年を迎えます。

2. 「炭鉄港」とは

昨年5月に北海道の産業革命を支えた「空知の石炭」、「室蘭の鉄鋼」、「小樽の港湾」に各地域を結ぶ「鉄道」を加えた「炭鉄港」の歴史が、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーとして評価を受け、北海道で4件目となる日本遺産に認定されました。



炭鉄港を構成する3つの地域

炭鉄港の始まりは薩摩藩主島津斉彬による集成館事業に由来します。薩摩藩内では欧米列強に対抗するため、北海道開拓の必要性が認識・成熟され、明治を迎えると、北海道開拓使には、黒田清隆をはじめとする多くの薩摩出身者が要職に就き、北海道の礎を築きました。

明治政府にとってエネルギーの国産化は重要な課題で、アメリカ人技師ライマンによって空知地域に石炭層が発見されると、国家プロジェクトとして産炭地(空知)と積出港(小樽)を結ぶ鉄道が、僅か3年という短期間で敷設され、小樽港から良質な石炭が日本各地に移出されました。

3. 港が支えた室蘭の発展

当初、石炭積出の中心は小樽港でしたが、出炭量の増加に伴い岩見沢－室蘭間の炭鉄鉄道が敷設されると室蘭の役割が大きく変わりました。太平洋側に位置する室蘭港は、関東方面への物資の輸送に適しており、掘り込みの必要がない天然の良港であったことから、室蘭港が移出の中心となっていきました。

また、鉄道国有化に伴う北海道炭鉄鉄道の鉄道事業売却益により、製鉄事業が興され日露戦争を契機に海軍による兵器の国産化を目指した時代背景とも重なり、室蘭は製鉄・鉄鋼のまちとして日本の工業を支える役割を担っていきます。

炭鉄港の足跡として、製鋼所内に建てられたレンガ造りの旧火力発電施設や、明治の洋風建築の面影を残す旧室蘭駅舎など、市内の8カ所が構成文化財の指定を受けました。



室蘭市内の文化構成財

左上 旧火力発電所(日本製鋼所) 右上 旧室蘭北炭会員倶楽部
左下 工場景観と企業城下町のまちなみ 右下 室蘭市旧室蘭駅舎とSL

4. 室蘭港の新たな活用

今年1月には日本遺産「炭鉄港」ガイド養成事業を開催、3月には日本遺産認定記念フォーラムの開催により、「炭鉄港」を活用した観光振興やまちづくりへの参画意識の促進に向けた取組を進めるとともに、「室蘭こ

ども環境フェスタ」で炭鉄港グッズの製作による炭鉄港PRを行いました。今後、市内8カ所の文化財前の歩道等にサインを設置するとともに近くの文化財を散策できる散策ルートを設定し、港のにぎわい創出や貴重な文化資産、観光資源と捉えて広域的な連携を図ります。

■ 日本遺産認定『炭鉄港』の取り組み

小樽市 産業港湾部

小樽市は、昨年5月20日、日本遺産『本邦国策を北海道に観よ！～北の産業革命「炭鉄港」～』として空知管内の9市町及び室蘭市、安平町とともに認定を受けました。

現在、北海道及び12自治体等で構成する炭鉄港推進協議会において、地域活性化に向けた様々な取組を行っています。

●日本遺産とは … 地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、有形・無形の様々な文化財群を活用し、地域活性化を図ることを目的としています。

●ストーリーの概要は … 『明治の初めに命名された広大無辺の大地「北海道」。その美しくも厳しい自然の中で、「石炭」・「鉄鋼」・「港湾」とそれらを繋ぐ「鉄道」を舞台に繰り広げられた北の産業革命「炭鉄港」は、北海道の発展に大きく貢献してきました。

当時の繁栄の足跡は、空知の炭鉱遺産、室蘭の工場景観、小樽の港湾そして各地の鉄道施設など、見る者を圧倒する本物の産業景観として今でも数多く残っています。

100km圏内に位置するこの3地域を原動力として、北海道の人口は約100年で100倍になりました。そ

の急成長と衰退、そして新たなチャレンジを描くダイナミックな物語は、これまでにない北海道の新しい魅力として、訪れる人に深い感慨と新たな価値観をもたらします。』となっており、港湾が鉄道とともに北海道の発展に大きく貢献したことや今も残る本物の産業景観が訪れる人に深い感慨と新たな価値観をもたらすという物語です。

●主な構成文化財 … 小樽港北防波堤、旧手宮鉄道施設(国指定重要文化財)、小樽中央市場等

●炭鉄港の取組 … 炭鉄港推進協議会が文化庁の文化芸術振興費補助金、文化資源活用事業費補助金のほか、各自治体が拠出する負担金を財源に各地域でのフォーラムやガイド養成講座の開催、パンフレットや炭鉄港カードの制作・配布などを通じ、人材育成・普及啓発・情報発信等を行い、次世代への継承やシンビクプライドの醸成を図ります。

小樽市の独自事業としては、教育旅行誘致のため、北海道開発局小樽開発建設部小樽港湾事務所のご協力をいただきながら、炭鉄港のストーリー紹介と廣井勇博士を筆頭に当時の技術者の先見性や功績を伝える取組を行います。



小樽港北防波堤…建設から100年以上経過した現在も第一線防波堤として機能を果たしている。



第一期小樽築港工事記念碑…「與天無極」天のとこしえなるが如く、この防波堤は永久なりという意味とのこと。(小樽港湾事務所みなとの資料コーナー) 揮毫は、第四代北海道廳長官、北垣国道氏



モルタルブリケット…コンクリートの長期耐用を調べる試験用供試体(同みなとの資料コーナー)

海上コンテナによる小口混載輸出の実証実験 ～台湾で道産品の販売会開催中～

北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課

今年度、北海道開発局では、道産食品の輸出拡大に向けた輸送コストや海外ニーズの調査を目的に、海上コンテナによる小口貨物の混載輸出及び海外でのテスト販売等の実証実験を行いました。

北海道開発局では、北海道総合開発計画における道産食品輸出額 1,500 億円の達成に向けて「農水産物輸出促進基盤整備事業」による屋根付き岸壁を整備するなど、輸出拡大に向けた取組を進めております。

本実験では、令和元年 8 月より、道内企業の輸出ニーズを集約し、海外輸入企業とのマッチングを可能にするウェブサイト「道産食品輸出チャンネル」を試験運用し、テスト販売への参加や新たに輸出を希望する事

業者を募集しました。

チャンネルを通じて集まった道内企業 29 社(66 品目)の商品を 9 月から 11 月にかけて、苫小牧港発の計 5 本の海上コンテナによる小口混載便を利用して台湾の基隆(キールン)港まで輸出しました。

対象商品は令和 2 年 1 月にすべて販売会場である台中市のアンテナショップに到着し、順次販売を開始しています。とりわけオホーツク産の長芋や別海町の生乳を使ったアイスクリーム等が好評で、すでに売り切れになっています。販売は令和 2 年 2 月末まで実施する予定で、店舗販売のほか、海外輸入企業との商談も実施する予定です。



小口混載貨物のバンニング作業（苫小牧）



台中市にある販売会場①



「道産食品輸出チャンネル」を活用した商談



台中市にある販売会場②

■「北方海域技術研究会 令和元年度 技術研究発表会」を開催しました

国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒冷沿岸域チーム、水産土木チーム

2019年12月20日に当研究所講堂において、「北方海域技術研究会 令和元年度 技術研究発表会」（主催：日本技術士会北海道本部北方海域技術研究委員会、寒地土木研究所）を開催しました。本研究発表会は、港湾・水産関係技術者の技術力向上をめざして、毎年開催しており、技術者同士の交流の場としても貴重な機会となっています。日本技術士会北海道本部と当研究所は2011年11月に「連携・協力協定」を締結しており、連携行事の一環でもあります。

当研究所水産土木チームの石井上席研究員は「オリンピック・パラリンピックと水産環境認証制度、そして水産土木チームの取り組み」と題し、東京2020大会での持続可能性に配慮した水産物の調達基準や、水産エコラベルの導入における課題などについて講演を行いました。また、寒冷沿岸域チームの岩崎研究員は「海洋漂流物の輸送過程」と題して、日本海でのマイクロプラスチックの輸送過程、および北米西岸設置ウェブカメラと粒子追跡モデルによる3.11震災漂流物の解析について講演しました。

株式会社西村組の旭幸司工務係長より「海上施工における最近の取り組み～台船積載量計測システムと魚礁移設工法～」と題して、オホーツク海の施工事例をもとに、UAVを用いた3次元写真測量による台船上の浚渫土砂の土量計測手法、および円形型魚礁などを移設する手法について講演されました。

また、道総研中央水試 資源管理部 海洋環境グループの奥村裕弥研究主幹は「海洋観測のICTの進展とセンシング技術の展開―道総研の取り組みを中心に―」と題して、情報基盤の高度化に伴う海洋観測技術の移り変わり、道総研の観測データの利活用の実例について講演されました。

各講演とも興味深い内容であり、会場では活発な質疑が交わされ、この発表会への関心の高さが感じられました。今回の研究発表会には北海道開発局、寒地土木研究所、民間企業等より約60名の参加がありました。主催者の一員として、ここに記して謝意を表します。



写真－2 旭幸司氏の講演



写真－1 会場の様子



写真－3 奥村裕弥氏の講演

■ 室蘭港長期構想について

室蘭市港湾部 港湾政策課

1. はじめに

室蘭港は、北海道の南西部の内浦湾東端に位置し、道内一の被覆内水域を有する国際拠点港湾です。同港は室蘭市の中央部に位置し、北側、南側、東側を陸地に囲まれた入江に天然の良港として発展してきました。臨港地区の面積は市街化区域面積の約3分の1を占めており、市街地と一体となった「みなとまち」を形成しております。

古くから、工業港として発展し製鉄業等の製造業を支える港湾として、我が国経済の発展を担ってきておりますが、港湾計画につきましては平成6年に改訂して以降、室蘭港を取り巻く環境に大きな変化が生じていることから、港湾計画の抜本的な見直しが必要な状況となっております。



室蘭港全体写真

2. 室蘭港の現状と特性

室蘭港には、北海道内で最も深い水深16.5mの専用埠頭岸壁等を有しており、岸壁の約6割が専用埠頭となっております。臨港地区内には様々な企業が立地しており、貨物量の9割以上を専用埠頭で取り扱っております。また、令和2年5月には国内最大級のPKS専焼バイオマス発電所が稼働予定となっております。

公共埠頭では、水深14mの崎守埠頭6号岸壁で釜山港を結ぶコンテナ航路が週1便運航されているほか、耐震強化岸壁である入江耐震岸壁、老朽化対策とともに世界最大級の大型クルーズ船対応化も進めている祝津埠頭岸壁等があります。室蘭港の背後には登別温泉、洞爺湖、ニセコ等の観光地が存在しており、平成24年以降、外航クルーズ船寄港回数が増加しております。平成30年6月には10年ぶりとなるフェリー航路が開

設されました。また、地震や台風等の被災実績が少なく、静穏水域を利用した避難船の受入れも担っております。

3. 室蘭港の課題

室蘭港では、船舶大型化に伴い、岸壁の能力を越える大型船の係留要請が増加傾向にありますが、産業立地に適した大ロットの土地が存在しておりません。現在、大型クルーズ船対応化を進めている祝津埠頭岸壁周辺の既存の賑わいエリアとの連結や未利用地の活用策についても検討が必要となっております。また、整備後50年以上経過する係留施設が現状で40%以上、20年度には70%となるため、港湾施設の戦略的な維持管理・更新が必要となっております。

4. 長期構想の策定に向けて

室蘭港港湾計画改訂に先立ち、室蘭港の20～30年後の将来像を検討するため、学識経験者や港湾関係者ら委員30人とオブザーバーで構成された長期構想検討委員会を3回開催し長期構想を策定します。令和元年11月に開催された第1回長期構想検討委員会では、室蘭港の現状と課題について、意見を頂き、令和2年2月に開催された第2回委員会では、「物流・産業」、「人流・賑わい」、「エネルギー」、「環境」、「安全・安心」の5つの方向性を将来像に掲げ議論しました。

「物流・産業」としては、物流基盤を強化し地域産業の競争力向上策として、御崎地区に公共ターミナル配置、築地地区の老朽化した櫛形の岸壁を埋め立てることによる物流機能強化を推し進める方向で検討し、崎守埠頭の鉄道引き込み線を活用した鉄道貨物の受け入れ、AI(人工知能)に対応したターミナル運営を想定しております。

「人流・賑わい」としては、世界の観光客の受入へ祝津埠頭の大型客船対応の整備に合わせた賑わいと交流空間の形成を見込み、小・中型客船は、入江地区、崎守地区はコンテナ船荷役と機能分担を想定しました。

「エネルギー」、「環境」としては、東北の一般海域で整備計画がある洋上風力発電施設の部材の組み立て、積み出しの拠点化、立地企業と連携した水素輸入、利用を想定しております。

「安全・安心」としては、静脈物流船舶の大型化対応や、被災地支援で災害廃棄物の受入などを検討しました。

これまでの議論を踏まえ、長期構想素案を精査し、令和2年5月頃にパブリックコメント(意見公募)を行い、夏頃には、第3回長期構想検討委員会を開催し、長期構想最終案をとりまとめる予定です。

また、これに基づき、令和2年度内に港湾計画を改訂する予定となっております。



令和2年2月19日開催 第2回長期構想検討委員会

■ 苫小牧港とバンクーバー港が LNG バンカリングの促進に向けた覚書を締結

苫小牧港管理組合

苫小牧港とカナダブリティッシュコロンビア州のバンクーバー港が3月5日にバンクーバー港湾局において「LNG バンカリングの促進に向けた覚書」を締結しました。

アジア側の最東端に位置する苫小牧港は、フェリーや RORO 船等の中長距離定期航路が週 120 便ほど就航する、海上取扱貨物量が国内 4 位である北日本最大の国際拠点港湾です。一方、北米西岸の最西端に位置するカナダ・バンクーバー港は、フェリーや RORO 船、自動車専用船等が就航している、海上取扱貨物量が北米 3 位であるカナダ最大の港湾です。両港間で積極的

に LNG バンカリングに関する情報交換等の連携を行うことで、両港の内航船舶及びアジアと北米を結ぶ太平洋を横断する国際船舶の LNG 燃料の更なる普及促進を図り、IMO(国際海事機関)による排出ガス規制の強化や温室効果ガス(GHG)削減等に貢献を目指すべく、このたび、船舶の LNG 燃料の普及及び LNG バンカリングの促進に関する覚書を締結しました。今後、環境にやさしい港湾拠点形成が進むことを期待するものです。

詳細は苫小牧港管理組合ホームページをご覧ください「<http://www.jptmk.com>」。



i-Construction 大賞の受賞に寄せて

—函館港若松地区岸壁ドルフィン部その他工事—

東洋建設(株)北海道支店

去る1月14日、令和元年度 i-Construction 大賞の授与式が国土交通省内で行われ、当社は「函館港若松地区岸壁ドルフィン部その他工事」において「直轄工事／業務部門の優秀賞」を受賞しました。「i-Construction 大賞」は2017年に国土交通省が創設し、建設現場の生産性の向上を図り、魅力的な現場に変える取組みを表彰し、また、ベストプラクティスとして広く紹介、横展開することにより、i-Construction を推進するものです。



記念撮影（赤羽国土交通大臣と武澤社長）

今回で3回目の表彰で ICT 施工や CIM に先進的に取り組んだ公共工事の受注者に対し、選考委員会において、有効性・先進性・波及性の観点から、計 25 団体(国土交通大臣賞 4 団体、優秀賞 21 団体)が受賞者に選ばれました。当日は武澤社長と白川支店長が出席し、武澤社長が赤羽国土交通大臣から「優秀賞」の表彰状と楯を受領しました。

(1) 工事概要

函館港若松地区でのクルーズ船桟橋の施工においては、クルーズ岸壁の暫定供用の期日が決まっており、遅延のない施工が求められた中、3次元モデルの活用等により、安全で迅速な ICT 施工を実現し、手戻りのない施工及び建設現場の生産性向上が図られました。

工事名：函館港若松地区岸壁ドルフィン部その他工事

工期：2018年03月24日～2018年09月23日

発注者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

受注者：東洋建設株式会社北海道支店



図-1 完成予定施設と周辺施設のモデル化

(2) CIM を活用した工事の取り組み

施工箇所は、青函連絡船摩周丸や周辺構造物に近接しており、これらに影響のない迅速な施工が求められたため、BIM / CIM による3次元データの活用を行いました。摩周丸周辺は、地上型レーザスキャナにより、測量時間の短縮や、大型バス等の出入りの激しい危険箇所への作業員立入りがなく安全性が向上しました。また、摩周丸周辺を3次元化し、広域地形を含めた工事周辺の詳細な現地形状と構築物を合わせて3Dモデル化を行うことで、潜在的な問題点を事前に把握・改善(フロントローディング)することが可能となり、手戻り防止の効果、施工効率及び安全性の向上を図ることができました。

特に、当該工事エリアでは、既設岸壁や既設杭との接触防止や他工区工事も同時期に行われる他、限られ



図-2 ドルフィン施工状況のシュミレーター

た施工エリアに多く作業船が配置されることが想定されたため、主作業船舶と輻輳する作業船等との輻輳時における船舶配置を事前検討し、船舶の配置や入り方を変更することで、作業の効率化が可能となり、作業船アンカー等の接触防止を含め安全性が向上しました。

また、ドルフィン上部工の複雑な支保工の作業手順をモデル化して、施工手順を埋立浚渫協会の安全ポケットブック等と組み合わせ「安全指示の見える化」として表示し、現場に貼り付けたり、安全教育や朝礼で使用したりすることで、「安全指示の見える化」に取り組みました。

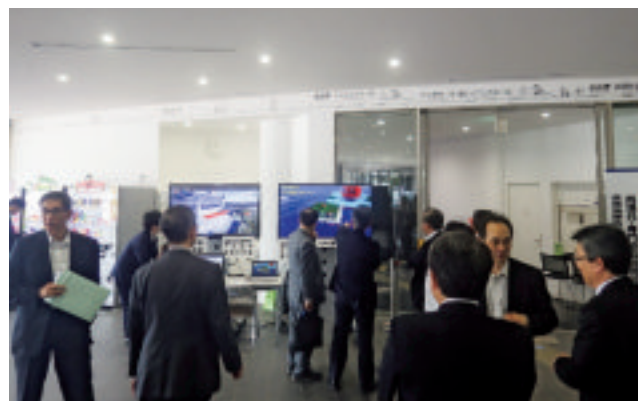
鋼管杭打設においては、 $\phi 1400$ L = 68m の大型長杭の打設であり、測量箇所が限られた現場条件であったため、当社開発の「3D 鋼管杭打設管理システム」(NETIS 番号：CBK-150003-A)を使用して、鋼管杭を自動観測で施工しました。



3D 鋼管杭打設管理システムによる無人化自動観測

これはノンプリズム式の自動追尾式 TS により位置、高さ傾斜がモニターに表示され、船舶のオペレーターにガイダンスできるシステムです。システムの特徴は、設計ラインと対象となる鋼管杭がどのくらいズレているのかを見ただけで判断するのではなく、鋼管杭をノンプリズム TS で直接測り、実際の位置を特定しているため、1cm 単位での設計位置とのズレを算出することが可能です。これらの利用により、施工不稼働日の減少と測量に要する技術職員・作業員の削減につなげ生産性が向上するとともに、打設精度を設計値の 50% 以内に高めることができました。

これら 3 次元データ活用や ICT の事例を「日本港湾協会総会 in 函館」、「ミャンマー港湾公社訪日調査団視察」や「学生を対象とした現場見学会」等で紹介しました。



「日本港湾協会総会 in 函館」での CIM 上映

特に学生アンケートでは多くの学生が港湾工事における CIM の 3 次元モデルや ICT といった新しい技術に興味をもったと回答がありました。

今後、ICT がクラウドや 5G でつながると、施工の自動化や遠隔地での検討が進み、経験頼りから AI を利用した高度な判断が可能な土木に変えていくと思われるます。これら ICT 活用は、省人化や高精度な施工管理の実現等、生産性の向上に寄与するだけでなく、土木の泥臭いイメージを払拭し、3D モデルの活用はステークホルダーの理解を高めるだけでなく、若者を惹きつける魅力があり、建設業を目指す若者の呼び水になると考えられます。

(追記)

なお、去る 1 月 30 日、森山副社長、白川支店長、櫻井次長が、北海道開発局を訪問し、後藤貞二局長、魚住聡港湾空港部長ほか幹部に受賞報告を行いました。後藤局長から技術力や先進的な取り組みについて、高い評価をいただきました。



北海道開発局長への i-Construction 大賞の受賞報告

遠別漁港船揚場上架施設の完成

北海道開発局 留萌開発建設 留萌港湾事務所

遠別漁港は、日本海有数の好漁場である武蔵堆を近傍に控える北海道日本海北部に位置し、ホタテガイ養殖、小型定置網、刺し網等の地域沿岸漁業の生産拠点漁港として、また、周辺海域で操業する漁船の避難拠点として重要な役割を担っています。

遠別漁港では、道内外のホタテガイ生産を支える種苗供給基地として衛生管理体制の取り組みを推進するため、第2港区へ屋根付き岸壁の整備を行うとともに、獲る漁業から「つくり育てる漁業」の振興を図り、ホタテ稚貝の生産増加体制を構築するなどの大きな成果を挙げています。さらに、近年はホタテ成貝の韓国輸出が開始されており、我が国の水産物輸出促進に寄与しています。

このような中、昭和63年に遠別町が事業主体となり整備したリフト式上架施設は、建設から30年以上が経過し、施設老朽化の進行に加え、近年のホタテ養殖漁船等の大型化へ対応していないため、漁船修理等の作業に支障を来していました。さらに、第2港区を利用しているホタテ養殖漁業と上下架作業の動線が輻輳し、漁船同士の接触の恐れがあるなど危険な状況となっていました。



既存の上架施設（昭和63年当時）

そこで、第1港区へ漁船上架機能を移設し、第1港区を準備・休憩エリア、第2港区を衛生管理エリアとしてゾーニングし、衛生管理の徹底を図るとともに、併せて老朽化した上架施設を漁船大型化に対応した規格で更新することにより、上架機能の向上を図ることとしました。

上架施設については、遠別町が事業主体となり、既



遠別漁港全景

存のリフト式からクレーン式へ上架方式を変更して整備することとし、平成30年度から留萌開発建設部が船揚場整備、遠別町が上架施設整備を一体的に進め、令和2年1月に施設が完成しました。

施設完成により、地元漁船の修理・点検作業の効率化に加え、遠別漁港周辺を操業する漁船の故障等による緊急利用も可能となり、避難拠点としての機能強化も期待されています。

船揚場上架施設の完成を受け、本年4月からの供用開始を目指して準備を進めております。また、遠別町では供用開始に合わせた記念式典の開催を6月に予定しております。



完成した船揚場上架施設



■ 一般社団法人 寒地港湾技術研究センターの名称変更について

令和元年6月12日に開催した第7回定時総会において、定款の一部改正が認められました。一部改正定款は同日から施行していますが、当センターの名称は令和2年4月1日から変更いたします。なお、センター

の所在地及び電話番号等の変更はありません。

旧)一般社団法人 寒地港湾技術研究センター

新)一般社団法人 寒地港湾空港技術研究センター

■ 令和2年度「積雪寒冷地港湾・空港等の振興のための助成」に関する募集

本事業は平成27年度に創設された制度で、積雪寒冷地である北海道の港湾・空港等の地域において、新たな魅力を発信する活動の一環として、民間組織を中心に港湾や空港の施設等を活用したイベントなど各種行事等の活動費を助成するものです。

平成27年度8件、28年度12件、29年度から令和元年度は毎年14件助成しました。

応募要領は以下のとおりです。

応募希望の個人または団体の代表者は助成要綱、申請書をホームページURLからダウンロードし、必要事項記入の上、応募してください。

応募期間：令和2年3月13日(金)～令和2年4月24日(金)

助成決定：令和2年5月末日

契約：助成決定通知後、1週間を目途。



■ 令和 2 年度「定時総会」開催のご案内（予告）

第 8 回定時総会を令和 2 年 6 月 10 日(水)午後 3 時から京王プラザホテル札幌において開催いたします。

会員の皆様には後日、総会と出欠のご案内を送付致しますのでよろしくお願いいたします。

■ 令和2年度 第1回 CPC 交流セミナー開催のご案内(予告)

年 4 回開催しております、会員参加の Face to Face による小規模な講演会スタイルの交流セミナー「第 1 回 CPC 交流セミナー」を下記内容で開催致します。

会員専用ホームページからの参加申し込みもできます。

皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：令和 2 年 4 月 16 日(木)17：30～

場 所：寒地港湾空港技術研究センター 会議室

テーマ：赤潮・貝毒の発生予防に関する新展開

講 師：国立研究開発法人 土木研究所

寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ

水産土木チーム 研究員 稲葉 信晴 様

■ 「令和3年度 自主調査研究テーマの募集」のご案内（予告）

令和 3 年度の自主調査研究テーマを公募いたします。

自主調査研究テーマの募集は当センターの定款に基づき、(1)寒地港湾空港技術及びこれに係る港湾、海岸及び空港整備に関する調査研究、(2)寒冷地における港湾の利活用及び港湾を核とする地域振興に関する

調査研究について、当センターが実施すべきテーマとして、現在必要とされているテーマ及び近い将来必要と思われるテーマを広く求めるものです。

応募要領の詳細はホームページに掲載(9 月頃)しますので、ご確認ください。

■ 図書貸し出しについて

従前から要望のありました図書の貸し出しに関し、貸し出し可能な約 3,000 冊につきまして会員対象に平成 29 年 2 月から貸し出しをはじめました。

概要は以下のとおりです。

ご活用ください。

1. 貸し出し方法：

- ①ホームページの「図書貸し出し」ボタンをクリックの後、会員専用ページに入る。

- ②貸し出し図書一覧表から借りたい図書を選定。
(書籍検索可能)

- ③申請様式をダウンロードし、必要事項記入の上、
FAX またはメールにて申請

2. 貸し出し冊数：5 冊まで

3. 貸し出し期間：15 日間

4. 受け渡し、返却方法：当センターでの手渡し

5. お問い合わせ先：詳細についてのお問い合わせは
011-747-1688 まで

■ メールアドレス登録のお願い

当センターでは平成 25 年 6 月からシンポジウム、講演会及びセミナーをはじめ港湾関連情報をタイムリーにお届けすべく、「CPC メールニュース」を発信しております。

しかし、メールアドレス登録者数は団体会員及び個人会員とも約 7 割となっております。

情報交流を一層促進するため、メールアドレス未登

録の会員につきましては登録していただけますようお願い申し上げます。

登録方法は当センター HP から登録できます。

<http://www.kanchi.or.jp/nyuukai/>

ご不明な点あれば、当センターまでお問い合わせ下さい。

